

テーマ： 神話等の歴史・文化をテーマとした観光誘客の展開

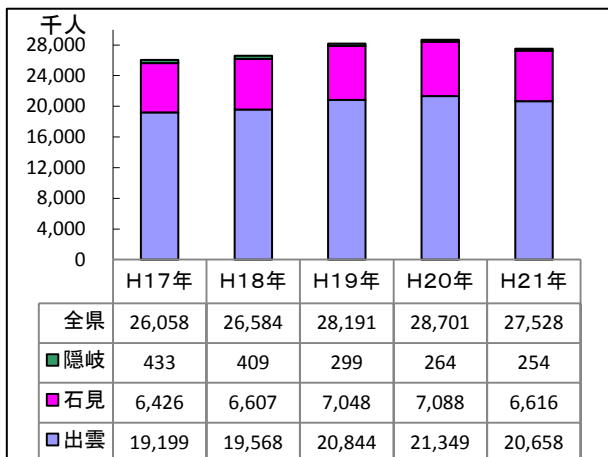
1. 観光の現状

(1) 観光客入り込み延べ数

・平成15～20年にかけて5年連続増加し、20年は過去最高であったが、21年は、対前年1,173千人の減(△4.1%)

・ホーランエンヤ開催による増はあったものの、次の要因から減少

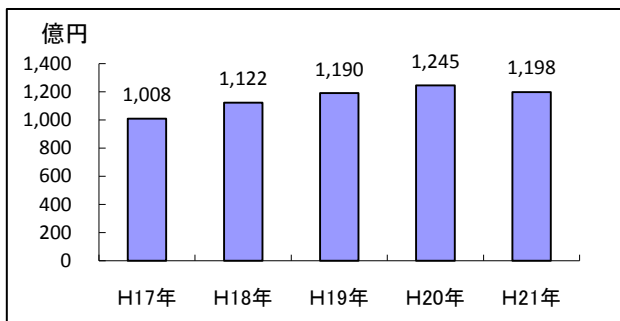
【要因】平成20年秋以降の景気低迷、新型インフルエンザの国内旅行による影響、前年の出雲大社大遷宮効果の反動



(2) 観光消費額

・平成21年の観光消費額は、1,198億円と対前年227億円の減(△16.0%)

・経済波及効果は、1,380億円(観光消費額の1.15倍)、雇用効果は、14,233人と推計。



(3) まとめ

- 近年の本県の観光は、地域間格差はあるものの総じて順調に推移していたが、21年はやや減少。
- 全国的にみると、宿泊動向は低位であるなど課題は多い。
※観光庁「宿泊旅行統計調査」 H20年:全国第44位 H21年:全国40位
- 今年に入り、県内においても国内・国際観光とも回復傾向にあるが、H20年の水準までには届いていない。

2. しまね観光アクションプランについて

【アクションプランの策定趣旨等】

○地域の特性に応じた観光戦略に基づき、県、市町村、団体、事業者、県民がそれぞれの役割を担いながら観光立県に向けた取組を進めるためのガイドラインとして策定するとともに、市町村計画の策定を誘導する。

- ・「島根総合発展計画」における観光施策推進のための個別計画
- ・観光地づくりを主体的に行う地域の計画策定等の参考として活用するための指針

【アクションプランの目標】

	H20年度	H21年度	H23年度	H25年度
観光入込客延べ数	2,870万人	2,753万人	2,900万人	3,000万人
観光消費額	1,425億円	1,198億円	1,450億円	1,500億円
観光不満足度	6.3%	4.6%	3%	

【達成に向けての視点】

① 観光消費額、経済波及効果の拡大

- ・滞在期間延長、宿泊者の増、地場産品の活用促進
- ・好機の有効活用(自動車道活用等)

② 島根の観光の売りの把握・活用

- ・消費者目線に留意、食や温泉の活用
- ・**古代から続く歴史・文化の活用**

③ 効果的な情報発信

- ・全国レベルの観光地や資源活用による観光しまねの認知度向上
- ・ターゲット(地域、年齢、志向等)に応じた情報発信

3. 事業内容

神々の国しまね ～古事記1300年～ 神話のふるさと「島根」推進事業（H22年度予算額75百万円）



ロゴマーク

(1) 事業の趣旨

平成24年の「古事記編纂千三百年」、平成25年の「出雲大社平成の大遷宮」を機に、古事記、日本書紀、出雲国風土記、万葉集などに描かれ、現代まで連綿と受け継がれてきた歴史文化に彩られた「島根」の魅力を、県・市町村・民間団体等が一体となって、広報宣伝や企画事業を展開することにより、島根の存在感を全国にアピールし、本県への観光誘客を図るとともに、県民自らその歴史・文化の価値を再認識し、郷土に対する誇りを醸成する。

【活用ツール】

古事記(712年)～日本書紀(720年)～出雲風土記(733年)～万葉集(759年)

(3) 推進体制

官民で組織する“神話のふるさと「島根」推進協議会”を組織して推進(H22.3.15設立)

《推進協議会》（事業計画・予算・決算の承認）

- 会長：島根県知事
- 副会長：市長会長、町村会長、観光連盟会長
- 構成員：市町村関係、広域観光団体、観光等関係団体、運輸機関の代表(20名)

【アドバイザー】5名

- ・上田歴博名誉館長
- ・三浦立正大学教授
- ・瀧音駒澤大学教授
- ・藤岡荒神谷博物館館長
- ・錦田神社庁主事
- ・川島芙美子
- ・坂本信幸

【ワーキング会議】

具体的な事業の企画・立案

- ・座長：島根県商工労働部次長
- ・構成員：県・市町村関係、広域観光団体、観光等関係団体、運輸機関等

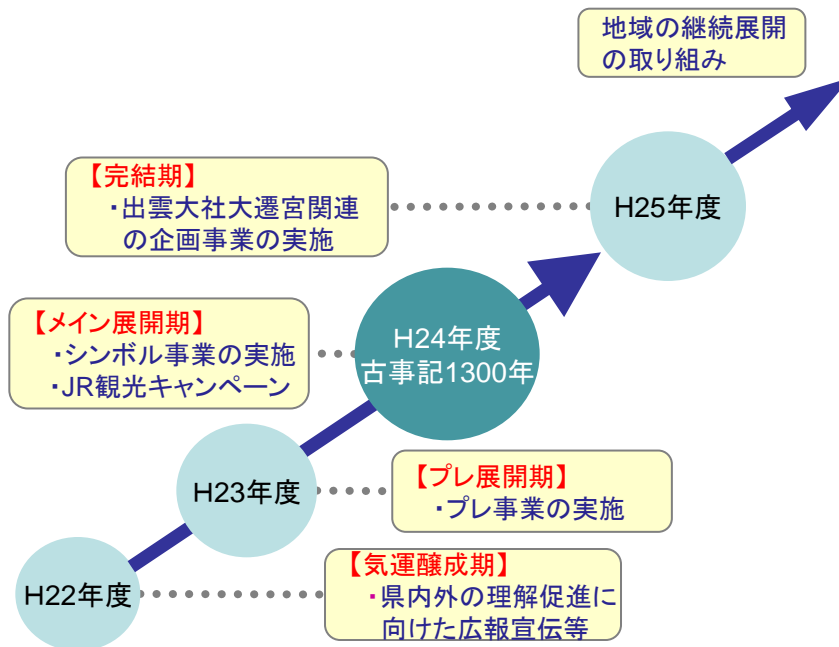
【事務局】

- ・島根県商工労働部観光振興課

(2) 事業展開

【コンセプト】

- 幅広い県民の参画を得た事業展開
- 古事記等に関係ある奈良県、宮崎県、鳥取県、三重県等と連携
- PRをより強固にするために、JRキャンペーンを活用(平成24年度)
- 事業終了後も地元で継続できる仕組みづくり



(4) 事業計画

①誘客プロモーション・情報発信 事業	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 著名人による漫画、アニメ等の制作 ▶ テレビ番組や動画コンテンツの制作支援 ▶ ホームページやパンフレット等の制作 ▶ 各種媒体を活用したPR など
②誘客イベント 事業	【アカデミック、アート、アミューズメント】 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 古事記・神話関連のシンポジウム(神在月シンポジウムなど) ▶ 歴博・美術館・芸文センター等の関連企画展 ▶ 伝統芸能を活用した集客イベント(石見神楽外) など
③他県との連携 事業	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 首都圏等での共同シンポジウム・イベント ▶ マスコミ及び旅行会社向け合同プロモーション など
④受地整備 事業	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 観光ガイドの養成 ▶ 古事記や神話等に関するデータベース化 ▶ テーマに関する着地型旅行商品の造成支援 ▶ 関連観光地の魅力アップ(サイン等の整備) など

◆ 平成22年度の主なイベント計画

- 企画展「神々のすがた 古代から水木しげるまで」
歴博 H22.10.8～11.28
- 企画展「神々の国、出雲の壮大なる交流(仮称)」
歴博 H23.3.4～5.16
- 企画展「神々のすがた -古事記と近代美術-」
グラントワ H22.9.17～11.7
- 神楽フェスティバル「須佐之男命～岩戸・大蛇～(仮称)」
グラントワ H22.10.30～31
- 石見の夜神楽毎日/定期公演
石見地域 H22.8月～11月

(5) 各関係団体ごとの事業展開

推進協議会	✓ HP制作・観光資源データベース化、他県との共同事業、旅行会社向け商品開発支援など
観光振興課、観光連盟	✓ 観光情報説明会や既存事業の活用 など
県各機関	✓ 広報誌の活用、歴博・美術館・グラントワの企画展等の各種連携イベント(冠事業)など
市町村、観光協会、広域観光団体	✓ 広報誌の活用、市町村(単独・広域)連携事業の実施(助成、冠事業) など
民間等	✓ 自主事業、県民提案事業の活用 など

◆ 市町村等連携事業(助成)

[H22年度]

市町村、広域観光団体に対して、受地整備や住民の機運醸成に係るソフト事業提案を募集

- ・万葉ガイド養成、研修会開催などを採択予定
- ・助成金1,000千円上限
- ※23年度以降も募集予定

◆ 県民提案事業(助成)

[H22年度]

気運醸成のため受地整備のソフト事業提案を募集

- ・観光ガイド養成など25件を採択
- ・助成金1,000千円上限
- ※23年度以降も募集予定

4. 今後の検討課題

■ 神話や記紀万葉の世界を活用した、観光誘客をどのように進めたらよいか。

- ・効果的な広報宣伝や誘客活動
- ・観光客に魅力ある受け地づくり(観光資源の発掘や磨き上げ、おもてなしの充実等)